

第 11 回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和 7 年 2 月 25 日(火) PM 7:30 ～ 9:00

場 所 新城市役所 4 階会議室

出席者 委員 25 名 事務局 4 名

次第

- 1 あいさつ
 - 2 議事
 - (1) 地域活動交付金審査結果に伴う審議について
 - (2) 地域活動交付金の交付上限額の引き上げについて
 - (3) 新たな地域計画推進体制への移行について
 - (4) 令和 7 年度への引き継ぎ事項について
 - 3 その他
-

1 あいさつ

2 議事

協議会の会議録署名

- ・定数 29 人のところ 25 人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を 1 名指名し署名をお願いした。

(1) 地域活動交付金審査結果に伴う審議について

2 月 22 日に開催された令和 7 年度地域活動交付金審査会で、全ての申請団体が 30 点を上回り合格となり、併せて審査員からの団体への意見をまとめたものを地域活動交付金分科会長代理から報告があった。

審議結果

- ・令和 7 年度地域活動交付金採択団体は、交付金審査会の結果のとおり承認された。
- ・令和 7 年度地域活動交付金に関して、追加募集は行わないこととなった。

(2) 地域活動交付金の交付上限額の引き上げについて

2 月 22 日に開催された地域活動交付金分科会において、交付上限額の引き上げについて、分科会としてまとめた方向性を地域活動交付金分科会長代理から報告があった。

◎主な意見

委 員 私も昨年度は審査をやったが、東郷地区の団体で、どうしても事業費が 50 万円を超えてしまうため、100 万円に引き上げて欲しいという団体は具体的にあるのか。また、どのような事業を行うのか、具体的なイメージがわからない。税金であるので、必要最小限の範囲で、ある程度みんなが同意できる範囲でないといけない。

- 事務局 東郷地区で50万円では足りないという声は聞いてはいない。新城地域自治区だと、例えば、伝統文化の継承として能装束を購入するために50万円を超えた申請があった。また、千郷地域自治区では、地域住民が集える広場の整備や、千郷夏祭りの開催のための事業が該当する。東郷地域でも、数年前に東郷夏祭りの開催のために、2年間ほどかけてやぐらや提灯、音響設備を購入するなど、ハード面を整備された事例がある。交付上限額を引き上げることで、通常だと整備完了に2年かかるのが、1年で短期に事業完了できるというメリットとなる。
- 委員 国の補助金などをうまく使う人もいるが、使わない人はほとんど使わない。よく調べると、色々使える補助金があったりする。伝統芸能の補助金もあったと思う。地域のために協働で活動するのは良いことなので、市の補助金だけでなく、国の補助金などを扱える団体がもう少し増えたら良いと思う。50万円以下でも10万円や20万円が良いので、そういった団体がもう少し増えると良い。地域協議会委員である我々が地域に交付金を申請したらどうかと地域内で勧めるなどして、上限額を引き上げるよりも少額でも活動団体数を増やすことの方が先ではないか。10万円以下の申請は、プレゼンテーションを省略し書類審査だけにするなど、負担を減らすのも効果的かと思う。やはり実際に交付金を使った人が一番実感わく。私は来年度も委員を再任するのでその間に地域の種を育てていきたい。

審議結果

- ・交付上限額は「100万円まで引き上げる」、交付率は「100%」とする。
- ・50万円を超える申請の審査に関し特別枠を設けたりするのではなく、50万円以下の申請と同様の審査基準で審査を行うとともに、50万円以下の申請と同様の予算の範囲内で扱う。
- ・市の本体予算で補助制度がある場合の事業は、原則的に地域活動交付金ではなく、市の補助制度を活用してもらう。

(3) 新たな地域計画推進体制への移行について

地域自治の意義や新たな地域計画推進体制への移行の必要性などについて、服部自治振興事務所長から説明を行った。

◎主な意見

- 委員 もし新たな地域計画推進体制への移行に向けての分科会を作る場合、開始時期や人員構成はどういった構想があるか。
- 会長 来年度4月になれば、新たなメンバーで地域協議会がスタートすると思うが、その中で最初に話し合っただき、分科会のスタート時期を決めていただきたい。今年度に決めるよりも、新しい体制にお任せする方が良いかと思っている。今年度には、分科会を設けるということを議決しておけば、来年度早々に事務局のサポートもあり、始まっていくと思う。
- 委員 良いと思うが、4月になって新規委員がいきなりこの審議ができるのかという心配はある。長い目で見えていくということであれば良いかと思う。
- 会長 来年度で決定しないといけないということではなく、新体制への移行をどのように

進めていくかという方向性を決めていくのだと思っている。まずは、一步踏み出すために、その方向性を考えていただきたい。

委員 現在は各行政区から1人ずつ代表として委員が出ている。ただ、この前の新体制案を聞いていると、各計画実行団体の代表者だけで組織するよう見受けられた。部落の人はどうになってしまうのかが1つの疑問としてある。その辺はどう考えているのか。各行政区にはそのような団体がいないところもあるわけなので、ない部落は意見を言う場がないということになる。

会長 分科会なので、地域協議会委員だけではなく、各団体、例えば区長会などから出させていただいて決めていきたい。そうすれば、区長会の中で議論していただくこともできるので、地域に少しずつでも浸透していくのではないかな。

委員 それで大体公平に各部落から意見が出る体制ができればいいが、現在の地域協議会の体制であれば、各行政区から出てきているので、漏れがないと思うが、計画実行団体だけで組織してしまう可能性もあるので、その辺を一番心配している。その辺はまた、知恵を絞っていただいて、どうしたら公平なるか、しっかりとした組織になるかは、まだまだ検討の余地がある。

会長 分科会の中での議論内容は、全体会でその方向性を発表する形となり、そこで地域協議会全員で内容を把握することができるので、そういう形をとっていきたい。

委員 一応確認だが、今言われているのは、地域計画推進組織の内容を検討するのではなく、次年度に関しては、その内容を検討していくためのいわゆる前座というか前段階として、どういうふうに決めていくべきなのか、そもそもどういう人がそれについて考えるのが妥当なのかという話し合いを進めていくことについての議決を図るという認識として間違いないかな。

会長 その通り。まずは半歩でも一歩でも、何もしないよりも、そういうことでも考えていった方が、より良い方向に進むと思うので、そういう方向性でやっていきたいと思う。まずは、準備段階ということで新たな分科会を作り、数年はかかると思うが、来年度から検討していくということによろしいかな。

委員 地域計画推進組織を決定するための議決ではないと認識を持ち審議したい。

委員 自主的に自治が進んでいけば、こんなに素晴らしいことはない。ただ、現実を見ると、地域協議会での議論を毎月1回、1年で12回開催したとしても、一步二歩くらいは進むだろうが、そんなに進展するとは思っていない。私はこの会がきっかけとなり、地域で様々な活動を仲間と一緒にするようになった。動いた数だけ自治が育つので、地域に関わる人が増えるようにしないといけない。その上で、私は1つだけ提案したい。地域的な繋がりを作るためにも、規模は小さくても良いので、東郷に事務所や家などの拠点があると良いと思っている。八名地域には、八名マルシェという拠点のようなものがあり、そこで地域の方がイベントを開催したり、住民が集まるきっかけを作っている。東郷地区でも、空き家はいっぱいあるので、電気料と固定資産税くらい払ってあげて、そこへ行けば誰かがいるような場を作る。そこに仲間を連れていったりして、そこで自然と馴染んでくると、全然違ってくる。みんな家に帰ると全部忘れてしまう。日常生活で迷ってしまっている。そのような建物があると違うと思う。例えば、了解を取っているわけではないが、愛知東農協川路支店が本店に統合されて、今は使われていない。あの施設の固定資産税や若干

安い賃料を払って、自治の拠点にするなど、そういうことを含めて何か動きとアイデアを出していかないと、本当に半歩進むくらいで終わってしまう。

審議結果

- ・新たな地域計画推進体制への移行に向けて、来年度の地域協議会で新たに分科会を作るようになった。分科会では、新体制に移行していくために必要な話し合いを進めていく。

(4) 令和7年度への引き継ぎ事項について

今年度議論し決定したことや次年度も引き続き継続的に審議してほしいことなどをまとめた令和7年度への引き継ぎ事項について説明を行った。

その後、5つのグループに分かれ話し合いを行った。討議終了後、各グループのリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨。

◎暮らそう

- ・暮らそうでは、公民館を活用し気兼ねなく集まれるような活動をしている団体が、もっと地域に周知され公民館活動が活発になっていくことを目的としている。その中で、地域活動交付金を活用した団体やその他の地域団体がもっと地域住民に知られるような冊子を作っていく事業を今年度提案した。来年度市の事業として冊子作成に向けて進めていくと思うが、進め方については、暮らそうのグループとその都度、連携や相談を行いながら事業を進めていただきたい。
- ・高齢者が家に閉じこもるなど、そういった地域の困りごとに対してどう向き合っていくか、その解決の深掘りについて色々と話し合ってきた。その中で高齢化が進み、草刈ができないなど、高齢者になったゆえの困りごとが増えてきている。それを新城地区では、ピンコロの会さんという団体が主体となり、お助けチケットという形でモデルとして解決を図られている。来年度は、その体制づくりなど、どのように進めていくのかはまだまだこれからなので、そうした団体に話を聞くなどをしながら事業の検討をしていただきたい。

◎守ろう

- ・今年度は防災をメインテーマにずっと考えてきた。公民館などの地域拠点を避難所として機能充実させるということで、来年度は簡易トイレの配布が決まっている。来年度以降数年は防災に特化して、避難生活をする上で必要な物資を揃えるということをメインテーマとして、今後検討していただきたい。あれもこれもと考えると焦点が絞れず何もできなくなってしまう。防災イベントは、東郷の防災を考える会にお任せして、地域協議会としては、とにかく必要な物資を揃えて、各行政区に渡すことをやっていただきたい。災害対応というのは、年齢は関係なく、どの世代にとっても、全住民にとって共通の課題だと思う。そういう意味では、守ろうだけの柱でなく、他の柱でも、それぞれの視点で防災について考えていただけるのが一番良いかと思う。あと、各地区でコミュニケーションを取るのが本当に難しい状態になっている。ただ、災害に対しては、どの世代も共通課題としてあるので、そこを起点にコミュニケーションが深まっていく可能性があると思う。より災害に強い地域を作っていくと

いうことに集中して考えていただきたい。また、最近では、大雨による土砂災害や台風による倒木の危険性が非常に高まってきている。そういう意味で、事前避難ということも1つのテーマとして考えていただきたい。

◎育てよう

- ・現在、多世代交流事業として、東郷学び学校の実行委員がしっかり頑張っていたいて、継続的な支援を次年度もしていただきたい。
- ・計画に記載のある新規農業支援が中々スタートできていないが、今年度東郷地域再生プロジェクトが発足され、色々な事業が生まれた。来年度は、課題に対し具体的にどういった方策ができるのか、そのプロジェクトと引き続き連携協力を進めながら検討をしていただきたい。また、守ろうの柱の領域に足を踏み込んでしまうが、獣害対策でドローン活用や草刈支援のテーマに関しても柱を超えて取り組んでいただきたい。

◎学ぼう

- ・検定試験や検定問題集については来年度上級編ができ上がる予定。上級編まででき上がったときに、翌年度以降の計画を考えないといけないので、来年度のうちに考えていただきたい。また、地域協議会と異なる組織だが、検定試験の実行部隊のメンバーの裾野を広げることに力を入れていきたい。そのために、学校へ検定試験のPR活動に行くことも検討していただきたい。

◎楽しもう

- ・来年度はホームページの予算を段階的に減らす方向で検討いただき、最終目標としては、予算が無くても自立運営ができるようにしていただきたい。
- ・着ぐるみの予算に関しては、来年度に着る人と補助者の報酬の予算を取っているが、今年度実際に着ぐるみが完成し事業が動き出したので、しっかりと需要や実績を鑑みて、今後継続するかどうかを検討いただきたい。加えて、着ぐるみの貸し出しなどといった活用方法に関しても、予算がつかない部分ではあるが、きちんと模索していただきたい。
- ・東郷ケッターパークやホームページは、楽しもうで予算をつけているが、年度当初は予算編成の都合上、活動団体を実際にこの会議の場に呼んで話を聞いたが、それ以降に楽しもうのメンバーが当事者から情報を得る機会がなかった。年間を通して予算をつけている以上、活動団体から予算執行状況の報告をいただきたい。
- ・地域計画の中にイベント推進の掲載があるけれども、毎年やるのかやらないのかという話をしている。東郷夏祭りや東郷学び学校がすでにあるので、それでイベント推進という計画が達成できていると考えるのか、それともまだ足りていないのか、その方向性を判断していただきたい。

審議結果

令和7年度への引き継ぎ事項については、原案に加え、各柱からの発表事項をまとめたものを追記した上で次年度に申し送るということで決定された。

3. その他

- (1) 地域協議会委員報酬・費用弁償の支払いについて
- (2) 令和7年度地域協議会委員への引き継ぎ資料について

【21:00 終了】